

平成27年度 教育事業実施報告

- 1 事業名 映画を創ってみよう!!シナリオ編、撮影編
- 2 期 日 【シナリオ編】平成27年6月20日(土)～21日(日) 1泊2日  
【撮影編】平成27年7月18日(土)～20日(月・祝) 2泊3日
- 3 募集定員 6組(5名前後1組で申込み、1名から2名での少数参加も可能)
- 4 参加者 3組(10名)
- 5 参加者内訳 小学生5名(小学4年生1名、5年生1名、6年生3名)  
(男子1名、女子4名)  
中学生5名(中学1年生4名、3年生1名)  
(男子1名、女子4名)
- 6 講師 【シナリオ編】  
田子明弘氏(脚本家)  
  
【撮影編】  
山本起也氏(映画監督)  
瀬川龍氏(カメラマン)
- 7 指導補助 【撮影編】  
田林彩氏(京都造形芸術大学 学生)  
林拓海氏(京都造形芸術大学 学生)  
植木咲楽氏(京都造形芸術大学 学生)  
谷村咲貴氏(京都造形芸術大学 学生)
- 8 ボランティア 【シナリオ編】  
佐廣涼花氏(徳島県立川島高校 生徒)  
大舘明恵氏(徳島県立川島高校 生徒)  
  
【撮影編】  
浅田真帆氏(徳島県立川島高校 生徒)  
大舘明恵氏(徳島県立川島高校 生徒)

## 9 実施プログラム

### 【シナリオ編】

#### (1) 6月20日(土)

- 9:30~10:00 受付  
10:00~10:15 開会式  
10:15~11:35 パート1「映画ってどうやって創るの？」  
「映画のシナリオってどうやって書くの？」  
11:40~12:15 昼食・休憩  
13:00~16:30 パート2「短いシナリオを書いてみよう！」  
「書いたシナリオを演じてみよう！」  
16:30~17:00 荷物移動・休憩  
17:00~17:30 タベのつどい  
17:30~18:00 入浴・休憩  
18:30~19:00 夕食  
19:15~21:15 パート3「シナリオのテーマをどう表現するか考えてみよう！」  
21:15~22:30 就寝準備・休憩  
22:30 就寝

#### (2) 6月21日(日)

- 6:55~ 7:15 朝のつどい  
7:20~ 9:00 掃除・休憩・朝食  
9:00~12:30 パート4「テーマ『私が幸せを感じる時』をシナリオ  
でどう表現するか決めよう！」  
「映画のシナリオを書いてみよう！」  
12:40~13:10 昼食・休憩  
13:30~14:30 パート5「映画のシナリオを完成させよう！」  
「次回、撮影編に向けて！」  
14:30~14:45 アンケート記入  
14:45~15:00 閉会式  
15:00 解散

### 【撮影編】

#### (1) 7月18日(土)

- 9:30~10:00 受付  
10:00~10:15 開会式  
10:15~11:35 パート1「本読み」  
「シーン、登場人物の確認」  
11:40~13:00 昼食・休憩  
13:00~16:30 パート2「ロケハン(撮影場所を決める)」  
「撮影準備(小道具、衣裳など)」  
「撮影」  
16:30~17:00 荷物移動・休憩  
17:00~17:30 タベのつどい  
17:30~18:00 夕食

18:30～19:00 入浴・休憩  
19:15～21:15 パート3「撮影」  
21:15～22:30 就寝準備・休憩  
22:30～ 就寝

(2) 7月19日(日)

6:55～ 7:15 朝のつどい  
7:20～ 9:00 朝食・休憩  
9:00～12:00 パート4「撮影」  
12:00～13:00 班ごとに昼食・休憩  
13:00～16:30 パート5「撮影、編集(パソコンで撮影した動画をつなげる)」  
16:30～17:00 荷物移動・休憩  
17:00～17:15 タベのつどい  
17:15～18:00 休憩  
18:00～18:30 夕食  
18:30～19:00 入浴・休憩  
19:15～22:00 パート6「撮影(夜のシーンがあった場合)」  
「編集(動画をつないだら、音楽を入れる)」  
22:00～22:30 就寝準備・休憩  
22:30 就寝

(3) 7月20日(月・祝)

6:55～ 7:15 朝のつどい  
7:20～ 8:30 朝食・掃除  
8:30～11:30 パート7「撮影(撮り残し分)」  
「編集(完成させる)」  
11:40～12:15 昼食  
12:15～15:10 パート8「編集(完成させる)」  
「発表会(創った作品をみんなで見る)」  
15:10～15:15 アンケート記入  
15:15～15:30 閉会式  
15:30 解散

## 10 プログラム内容

### (1) シナリオ編

シナリオ編では、脚本家の田子明弘氏から、まずシナリオ作成に求められる「想像力」や「表現方法」の大切さを幾つかのワークを通して確認した。

続いて、映画の作成に必要なシナリオ作りについての技術を学び、各自で3分間の映画のシナリオを作成した。最終、撮影編に向けて、班ごとに映画化を行う代表作品を決定した。

#### 1) 1日目

シナリオ編冒頭で、平成26年度「映画を創ってみよう!!」の参加者の映画作品を鑑賞し、全日程における自分たちのゴールを再確認した。続いて、このシナリオ編における目標設定や、2日間で取り組む内容を確認した。

次に、表現力や想像力を磨くワークを行った。表現力ワークでは、仕草や動作も意思を伝え

る手段であることを確認した。続く想像力ワークでは、そのシーンの情景を踏まえて、それをシナリオであらわさなければならないことを学んだ。シナリオを書く際、場面のシーンや登場人物の立ち居振る舞いなどを映像化するために、想像力を働かせながら書く必要がある。

午前中の終わりから午後にかけて、個人作業を主として行った。原稿用紙の使い方ははじめ、シナリオの書き方・構成等の基本的なことを学んだ。続いて、今回の作品テーマ「私が幸せを感じる時」を各々具体的に掴むため、個人ごとに自分が幸せを感じる時を10個考えた。

夜は、午後考えた幸せの中からシナリオ化を行う「幸せ」を1つに絞った。その後、各自1本シナリオを書くために、登場人物やロケーションを考えた。早くできた人からハコ書き（シーンごとに、登場人物や出来事、セリフなどその内容をまとめたもの）を作成した。

## 2) 2日目

午前中は昨夜作ったハコ書きを基に、シナリオを書いた。映像化した完成品を頭に描きながら、講師のチェックやアドバイスを受けながらシナリオを完成させた。班員全員の作品が出揃った後、話し合いで各班の代表作を決定した。

参加者の子どもたちは、撮影編までに班内でシナリオを推敲し、衣裳や小道具などの準備をすることになった。



田子先生より「脚本とは。。。」



アイスブレイク～ティシューパー大作戦～



1人1人シナリオを作成・推敲中



グループの代表シナリオを発表！



シナリオ編終了！次は撮影編だ!!

## (2) 撮影編

撮影編では、映画監督の山本起也氏、カメラマンの瀬川龍氏、指導補助員として山本講師が教鞭を執っている京都造形芸術大学 学生の方々にご指導いただいた。撮影編では、まずロケーションと配役を確定させ、シナリオの読み合わせを行った。その後、撮影スケジュールに従って撮影と編集を行い、各班1本の映画を作成した。上映試写会では、ボランティア班も含めて、全体で5作品の鑑賞を行った。

### 1) 1日目

午前中は、撮影編の全体の流れを確認した後、各班不明瞭であった登場人物やキャスティング、シーンの情景等を詰める最終確認を行った。キャスティング終了後、シナリオごとにキャスト全員で本読みをし、作品の流れを掴んだ。

午後は、シナリオを基に全員で交流の家内を巡り撮影場所を見学して、撮影場所を決定した。そして、必要な小道具や衣裳の準備をし、早速撮影を開始した。両講師、指導補助員の指導の下、撮影をしながら現地でカメラなどの撮影機材の扱い方やカメラワークの技術を学んだ。

夜は、ナイトシーンの撮影を行った。その他、山本講師より明日からの撮影に向けて、全体の撮影スケジュール説明があった。

### 2) 2日目

午前、午後ともに、各班に別れ、それぞれの撮影場所（交流の家内、吹上浜等）で撮影を行った。

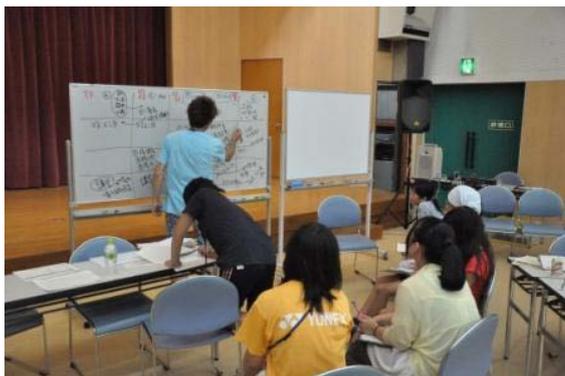
夜は、撮影した動画をつなぎ合わせたり、効果音を入れるなどの編集作業を行った。

なお、一部撮影データが消えてしまうというハプニングが発生し、再度撮影スケジュールを組み、撮影を行った。

### 3) 3日目

午前から午後にかけて、取り残し分の撮影と編集作業の続きを引き続き行い、各班3分間の映画を仕上げた。

最後に、各班の作品の上映試写会を行った。上映前に、各班のリーダーから作品に込めた思いや工夫した点などを発表した。



講師より、撮影スケジュールの説明



綿密なスケジュール



シーンの流れを打合せ



撮影シーンの1コマ



映像をつなげ、効果音を加えていきます



映画完成！みんなお疲れ様!!

## 10 広報

### (1) 広報の手段

#### 1) チラシによる広報

- ・淡路島内3市（南あわじ市、洲本市、淡路市）全小中学生に配布
- ・所内へのチラシの配架
- ・公共施設、商業施設への配布依頼

#### 2) 電子メールによる広報

- ・当所のメーリングリストで広報（運営協議会委員、青少年教育施設職員、行政関係者等）

#### 3) その他

- ・当所ホームページへの掲載、Facebook による広報

- ・交流の家利用団体への広報
- ・交流の家にポスター掲示
- ・公共施設、商業施設にポスター掲示を依頼
- ・地元音声告知放送を使った広報

## 11 参加者の声

- ・自分にもシナリオが書けたことが驚いたし、楽しかった。
- ・シナリオ編でハコ書きができると、どんどんイメージが膨らんだ。また、その上で自分の作品の主題である「家族」について普段気付かなかったことに思いを馳せることができた。考えることが楽しかった。
- ・映画を作る際の裏側をしれた。
- ・撮影が楽しかった。
- ・アングルや見せ方などを考えたカメラワークやマイクの向きなど撮影方法に苦労したが、自分たちの作品が出来て良かった。
- ・本格的な撮影機材を使うと、撮った映像が普段見ているドラマのようになるので驚いた。また、マイクを通して拾った音がすごくクリアだった。

## 12 担当者の所見

本事業は、子どもたちが実際に映画を創ってみることを通して、自分の思いを伝える力や相手の立場に立って考える力などのコミュニケーション能力を養うこと目的としている。また、あわせて創った映画をアジア国際子ども映画祭に出品することを通して、子どもの文化芸術体験活動の普及啓発を図ることを目的として実施した。

今年度は募集要項で1名から2名の少数参加を認めたため、1人での申込が3名あった。また、アジア国際子ども映画祭の本戦大会 会場が地元南あわじ市から北海道へ移ったこともあり、最終参加者が10名であった。次年度以降実施する場合は、広報が課題である。

シナリオ編では個人作業主体であり、滞りなく進んだ。一方、撮影編ではボランティアあわせて12名で5作品を映画化することとなり、班の垣根を越えて、他の班のキャストを演じるなど、協力して映画を創り上げる姿が見られた。その一方、調整した撮影スケジュールは、子どもにはやや過密であり、苦しさを感じた子どももいたようである。

成果と課題として以下の点が挙げられる。

### (1) 指導補助員の協力（撮影編のみ）

今までの課題として、撮影場所が撮影班ごとによって異なったため、講師の指導が十分に行き届かないという課題があった。それを踏まえ、今年度は山本講師からお声掛けいただき、京都造形芸術大学の大学生に関わっていただくことができた。そのため、きめ細やかな撮影指導、スムーズな撮影を行うことができた。また、撮影現場や編集で分からないことがあれば、大学生に気軽に相談する場面も多く見られ、参加者も安心して取り組めた。

### (2) 募集方法の検討（単独参加者の扱い）

第1回から第2階までの検討事項であった少数（単独）参加を、今年度から募集要項で認める案内を行った。潜在的なニーズはあったようで、単独参加の申込は4名あった（1名は申込後、キャンセル）。

今後の検討事項として、単独参加者の扱いである。今回は単独参加者3名で1班作った。更に、子どもたちの希望を聞いてそれぞれシナリオ作成、映画化することになった。事業全体の人数が少ない中で、1人で1作品をつくるのは難しかった。

次年度は、単独参加者班は、グループで申し込んできた他の班同様、映画化するのには1作品だけにするなど、検討が必要である。

(3) 参加申込み条件の検討①（募集対象）

従来どおり、小中学生を対象に募集を行った。しかし、アジア国際子ども映画祭の本戦会場が地元南あわじ市から北海道北見市に変わったこともあり、地元からの参加者が減少した。

次年度は、撮影編を念頭に入れて、高校生まで募集を拡大するなど、検討が必要である。

(4) 参加申込み条件の検討②（全編参加必須か、撮影編のみの参加を認めるか）

第1回から第2回にかけて、参加形態の検討が行われた。

論点として、

- ・前編、後編片方だけの参加を認めると、班員の入れ替わりがあり、映画化に向けた方向性がぶれる。
- ・また、グループワークを図る目的から若干それてしまう。

とのことで、前年度と今年度は全日程参加を参加条件として掲げた。このことにより、映画作成を通して、班ごとに話し合い、班で試行錯誤する場面が多々見られた。

シナリオ編は個人作業であり、講師の指導を行き届かせることだけを考えると、少数実施がいい。加えて、シナリオをきめ細やかに作りきることで、撮影編に円滑に繋ぐこともできる。一方、撮影編では非常に多くの人員が必要となる。

映画作りだけが本事業の目的ではないが、次年度は目的と運営の兼ね合いも踏まえて参加条件を検討する必要がある。

(5) 関係大学との連携について

撮影には、専門的な知識と技術の指導、撮影機材とそれらを扱う知識が必要である。また、上記(2)(3)の検討もあるが、グループ応募を原則としていることから、撮影時には班ごとに分かれて撮影するため、その班ごとに指導できる人員が必要である。

今回ご協力いただいた京都造形芸術大学からは撮影機材貸出、指導学生の派遣が次年度も可能ということであるので、連携していきたい。